

# 旭労災病院ニュース

病院情報誌 第7号 平成18年6月1日発行

発行所：旭労災病院

〒488-8585

尾張旭市平字町北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

## 膠原病診療の現状について

膠原病内科部長 森 康一



この4月から膠原病内科部長として診療をおこなっています。現在は糖尿病と膠原病を掛け持ちで診療をおこなっています。先日勉強をかねて某大学病院膠原病内科のカンファレンスに参加させていただきました。そちらの大学病院では膠原病の入院患者数が50名弱と大変多く、その診断にいたるプロセス、治療内容などをみせていただきました。なかには日赤や安城更生などの大病院からも紹介患者が入院されており、いまだに膠原病が敬遠されているような印象をうけました。たしかにSLEなど状態のよかった患者が急死することが往々にしてあります。理由として膠原病の場合その侵されている臓器の特定が難しいという特徴があります。SLEでいえば通常簡単に生検を行い得ない、神経、筋、腎臓、血管、脳などが侵されます。したがって病変の程度が十分把握できないうちに診断、治療が行われるというのが一般的です。今後は医療機器の進歩により非侵襲的検査法の確立が望まれます。高安静脈炎などは超音波の進歩により問診および血管(頸動脈)エコーのみによりかなりの症例が診断できるようになっています。

また膠原病はそのフォローに際して、生命予後に直結する臓器、すなわち脳、および脳血管、心臓および冠動脈そして肺および肺血管の管理が重要になってきます。実際SLEなどは若年者の心筋梗塞の原因疾患の一つになっており、早期から定期的な心臓超音波検査や運動負荷心電図がより生命予後を改善するため、あるいは急死を予防するために必要です。

大学病院においても診断に苦慮している症例が数多くいるというのがこの疾患の特徴です。したがって疑い病名あるいは診断がつかない、といった返事になるケースもありますのでご了解くださるようお願い申し上げます。

膠原病の検査は診療点数が大変高く、医師会の先生方のように患者さんの自己負担に大変配慮され、必要不可欠な検査にとどめている点はわれわれ勤務医も見習わねばならないところです。むやみに自己抗体のオーダーを乱発し、医療経済の混乱を招かぬよう戒めなければいけないと感じています。

今後当院でも正しい、標準的な医療に近づくことができるよう知識などを深めていきたいと思えます。不明熱の精査など紹介に躊躇されるような患者さんでも構いませんのでよろしくお願ひいたします。そのほかレイノー症状/皮疹などの症状が続いている患者さんがいらっしゃいましたら当院皮膚科も含めてご利用くだされば幸いです。

膠原病内科について今後ともよろしくおねがい申し上げます

